

# 壊れゆく“若者たち”

## File.62 デジタル症候群 ～自殺動画拡散という社会の病

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

先日、大阪駅で20代女性が高層ビルから飛び降り自殺をするという痛ましい事件がありました。この事件は警察官が約1時間にわたって説得をしましたが、周囲に野次馬が殺到し、その野次馬の様子をスマホで動画撮影していたという異様な光景になりました。

スマホの進化により目の前で起きたことをすぐに動画撮影できることは、とても便利です。しかし、自殺の瀬戸際のような場面を動画に収めるということは到底理解できません。さらにこの動画を撮影した先にはSNSに投稿するという目的があります。かつてはテレビや新聞の記者がスクープを撮るような感覚で、個人個人がジャーナリストと化します。自分の媒体へのアクセスを高めるのです。非日常な出来事ほど好まれます。その理由は、非日常のさまを見たがるネット野次馬がいるから、です。関連して「自殺動画よりもこちらを見てよ」というように検索した野次馬を自サイトに誘導するケースもあり、溢れかえる情報を流用するケースも散見します。

なぜこのような行為に至るのでしょ



*Profile*  
東京都大田区生まれ。  
英国ウエールズ大学MBA（経営管理修士）。  
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。  
（株）グッドクロス取締役COO。  
長年コールセンター運営に携わり、人と人のコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。  
beccall1031642012088  
[http://www.beall.jp]

うか？それは、自分のSNSや自分のサイトにアクセスを集めることで、収益を得ることを意図する人がいるからです。それだけではなく、単純に多くの人の目に触れるという数の優越感に浸る人もいます。モラルの劣化が恐ろしいのは、アクセス目的のために、人が死にゆく本物の画像ですら、素材と化してしまう点です。ネット社会、スマホ社会が生み出した大きな闇であると感じます。

人の命は見世物ではないのです。こんな当たり前のことすら麻痺してしまふ現代社会には、到底歯止めを掛けることはできないでしょう。絶対的に感じてほしいことは、「ネット上には画像や文章が残り続ける」ということです。テレビ等でニュースになろうとも、ひと目の付くところにいつまでも残り続

けたりするケースはあまりありませんが、ネット上ではずっと残り続けてしまいます。これにより遺族や関係者にもずっと恨みを残すことになるのです。現在、SNSに投稿をしている人は、きっとこうした関係者の悲しみを考えたことも無いでしょう。今一度考えるべきだと感じます。

